



原 周二さん(一本松)

取材中に外国人受け入れの国会審議が始まり、記事の執筆に力が入りました。

茨城県の在留外国人数は全国10位で、在留資格別では、技能実習が約2割、定住や永住者が約4割です。定住者が多いことに、国際化が進んでいることを強く感じました。

筑西市国際友好協会をぜひ存知ですか

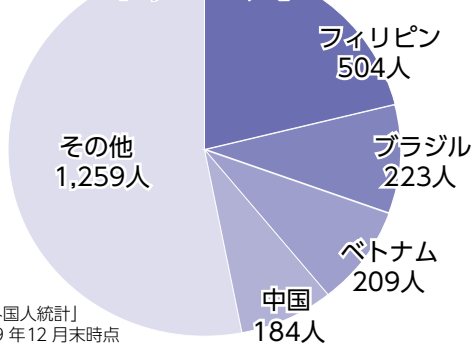
市内在住の外国人は約2,300人。国際化が進むなか、国際親善のために活動している団体を紹介いたします。

近年、市内で外国人を見かけることが多くなりました。

法務省の調査では、市内の在留外国人は約2300人で、その多さに驚きました。国籍の内訳はグラフのとおりです。かつては中国籍の人が一番多かったのですが、現在は東南アジア系の人が増えています。「その他」の国の人が、全体の半数以上を占めるということは、さまざまな国から人が集まっていることが読み取れます。

筑西市の在留外国人数

(2,379人)



【引用】法務省「在留外国人統計」平成29年12月末時点

国際友好協会と日本語教室

国際化の進展に伴い、平成元年に地域の国際交流を進めるように国から指導があり、それに基づき、平成2年頃から、全国各地で国際交流の団体が発足されるようになりました。筑西市では、合併に伴い旧4市町

また、国内の外国人労働者数は、ここ5年間で、68万2000人から127万8000人へと推移しており、約2倍と著しく増加しています。

の各団体を統合して、平成21年に「筑西市国際友好協会」を立ち上げました。

友好協会の活動について、会長の日向野ひさ子さんに話を伺いました。友好協会は、国際親善を目的として、盆踊りへの参加、バーベキュー、リング狩りなどの活動を行っているとのこと。中でも、日常生活に不便をきたさないための支援活動として、日本語教室に力を入れています。

現在、友好協会主催の日本語教室では、県の養成講座で研修を受けた8人の日本人講師が、35人の生徒に日本語を教えています。市や下館シニアライオンズクラブ、下館ロータリークラブなどの支援もあり、平成5年から26年間続いているそうです。日本語教室は、アルテリオの下館教室と明野公民館の明野教室、2か所で開催されています。

生徒の国籍は11か国におよび、生徒のうち3分の2を東南アジア系の人々が占めています。先生たちによると、日本語の習得には個人差があるので、生徒に合った授業を心掛けているそうです。生徒が熱心で教えるのが楽しいとの話がありました。

社会の動きと多文化共生

今後、日本の少子高齢化と人手不



クリスマス会の様子。さまざまな国籍の人が参加し、交流を深めていました。(左端：日向野ひさ子会長)

問

筑西市国際友好協会 日向野
☎090-8776-3233

足が進み、外国籍の人が増える傾向はますます強まって行くことでしょう。これに伴い、生活の相談事なども増えると思いますが、現在、その窓口が曖昧になっているように感じます。国や自治体がどのような受け皿を設けるかが問われる時期にきているということでしょう。

社会や経済、人がグローバル化している世界の潮流の中で、日本の伝統や文化を大切にしつつ、多文化共生に努め、地域活性化に活かしていきたいものです。